

たまねぎ 白色疫病 注意！

1 発生状況

- (1) 3月上旬の病害虫発生予察調査において、一部のほ場で発生が見られ、被害株率6.0%と直近10年の平年値0.5%に比べ多かった。
- (2) 植物防疫協力員から発生が多いとの報告が複数あった。
- (3) 向こう1ヶ月の気温は高く、降水量は平年並と予想されており、今後、まん延の恐れがある。



図1 葉先の下垂



図2 葉の中央からの下垂

2 生態と特徴

- (1) 病斑上の遊走子が雨滴やたまり水を介して周辺株に感染する。
- (2) 最初、葉の中央部付近に油浸状の青白色の病斑が形成される。
- (3) 病斑が拡大すると葉が下垂したり、よじれたりする。
- (4) 菌糸の最適発育温度は15～20℃。最高28℃で30℃では発育しない。
- (5) 葉先枯に症状が似ているが、白色疫病は葉先枯に比べ、境界部が明瞭である。
- (6) 早生品種に被害が多い。

3 防除

- (1) 排水不良のほ場で発生が多いので、降雨後の排水に努める。
- (2) 降雨前後の防除を徹底する。
- (3) 2週間間隔で定期的に予防剤を散布し、発生を認めたら治療剤を散布する(表)。

表 たまねぎ 白色疫病の防除薬剤(例) 散布にあたっては農薬のラベルを確認すること。

薬剤名	系統(FRAC)	種類	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数
ジマンダイセン水和剤	ジチカ-バメト(M3)	予防	400～ 500倍	収穫3日前まで	5回以内
ダコニール1000	クロロニトリル(M5)	予防	1,000倍	収穫7日前まで	6回以内
バトファイター顆粒水和剤	シアプロトアミド・ホシム(27) CAA(40)	治療 治療	2,000倍	収穫7日前まで	3回以内
リドミルゴールドMZ	ジチカ-バメト(M3) フェニルアミド(4)	予防 治療	1,000倍	収穫7日前まで	3回以内
ザンプロDMフロアブル	CAA(40) QoSI(45)	治療 治療	1,500～ 2,000倍	収穫7日前まで	3回以内
ホライズンドライワブル	シアプロトアミド・ホシム(27) QoI(11)	治療 治療	2,500倍	収穫3日前まで	3回以内
プロポーズ顆粒水和剤	クロロニトリル(M5) CAA(40)	予防 治療	1,000倍	収穫7日前まで	3回以内

注) ジマンダイセン水和剤、リドミルゴールドMZなどに含まれる成分マンゼブの総使用回数は5回以内。
ダコニール1000、プロポーズ顆粒水和剤などに含まれる成分TPNの総使用回数は6回以内。